

「学習する組織」と活動理論

～現場研究によるアプローチ

杉万 俊夫(京都大学 人間・環境学研究科)

福井 宏和(原子力安全システム研究所)

活動理論の位置づけ

□ 人間科学の2種類の理論

- ・意思決定 (decision-making) のための理論
- ・腑におちる (sense-making) ための理論

□ 活動理論 (activity theory)

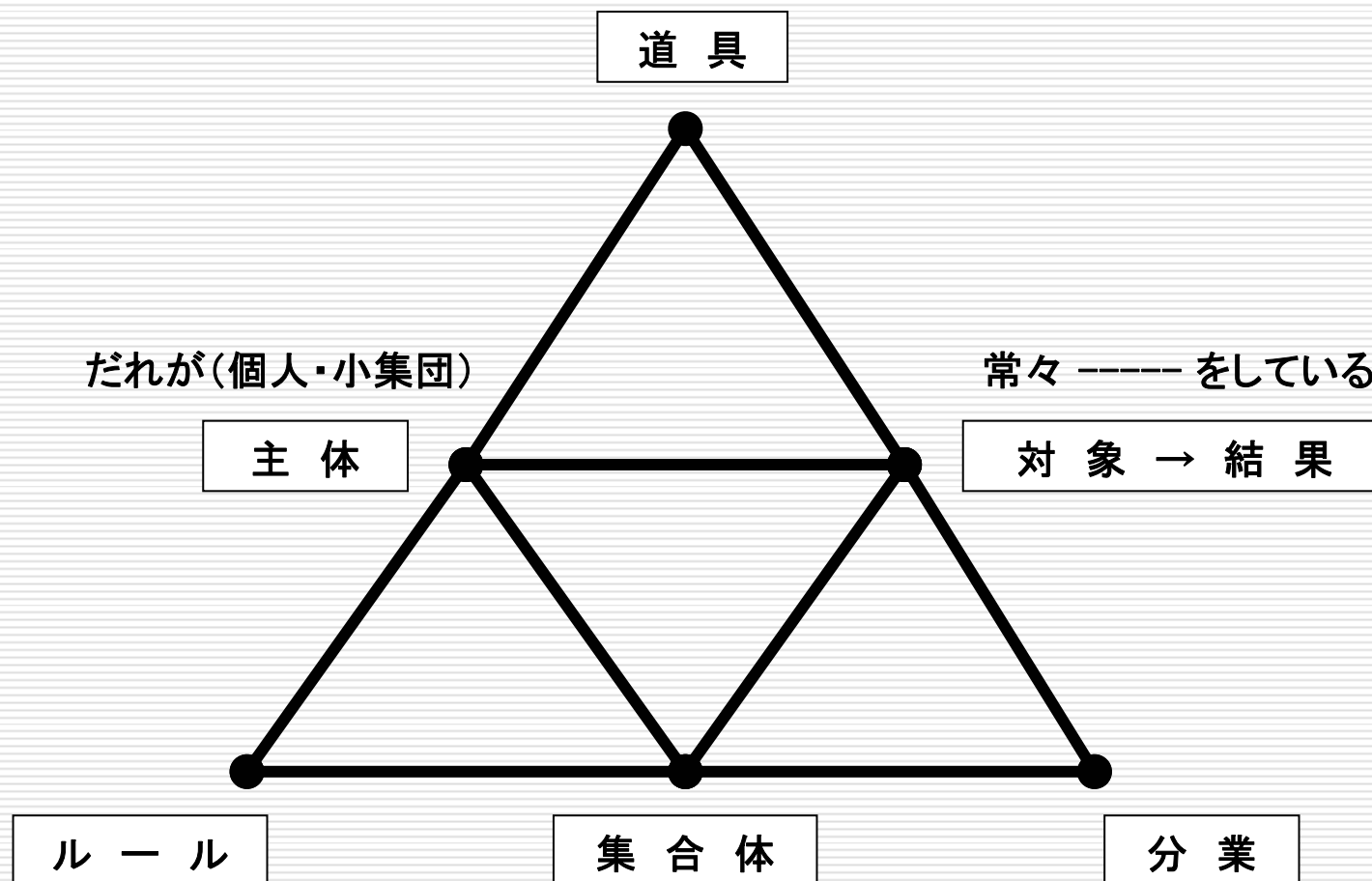
- ・・・意思決定のための理論の一つ
- ・現象に内在する人 (内部者) のためのツール
- ・ある程度、単純でなければならない

活動理論の眼目

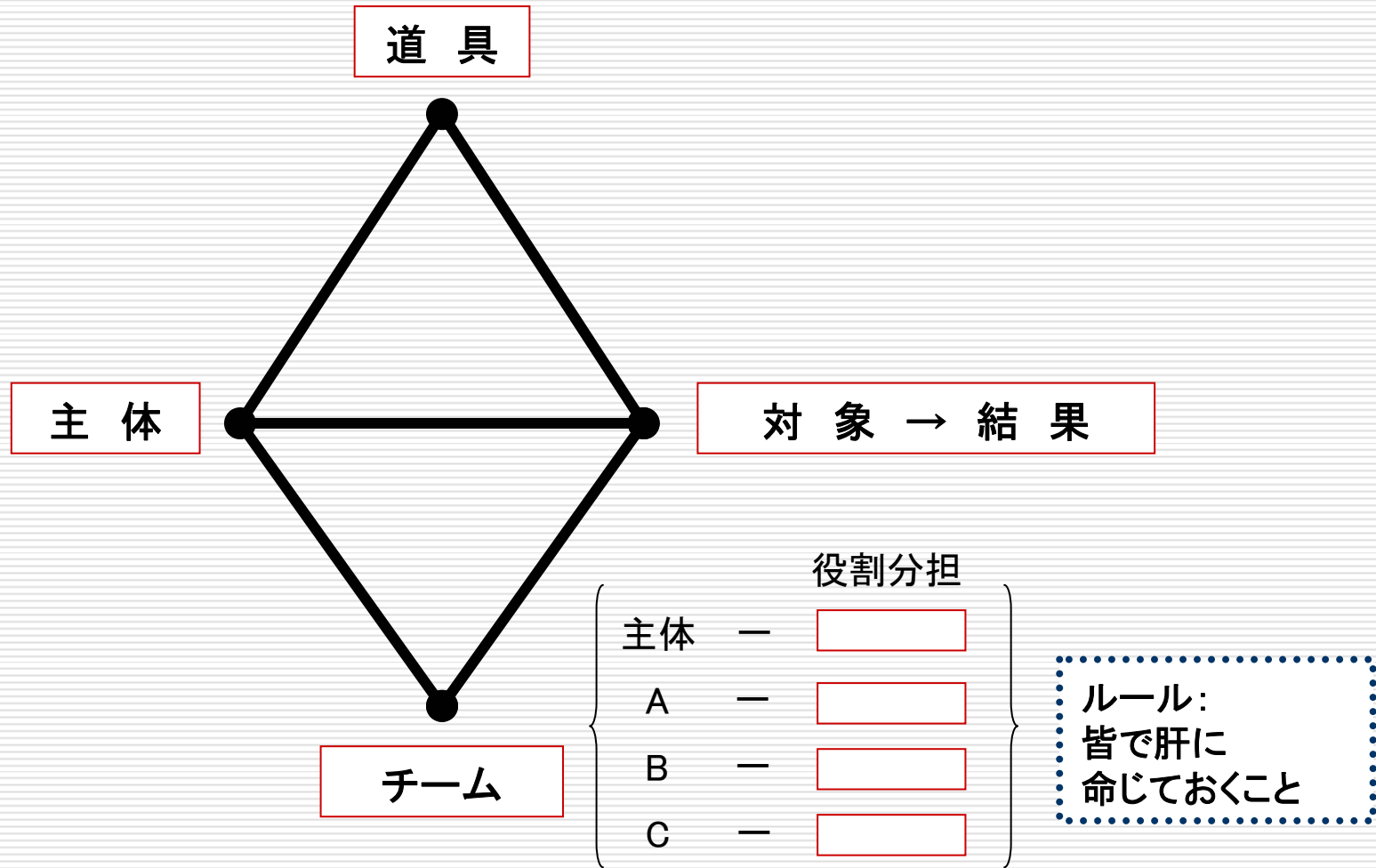
- 一見、個人の「行動」に見えるものを、
集合体の「活動」の一部として把握

- 個人プレーに見えるものを、
チームプレーの一部として把握

活動の構造

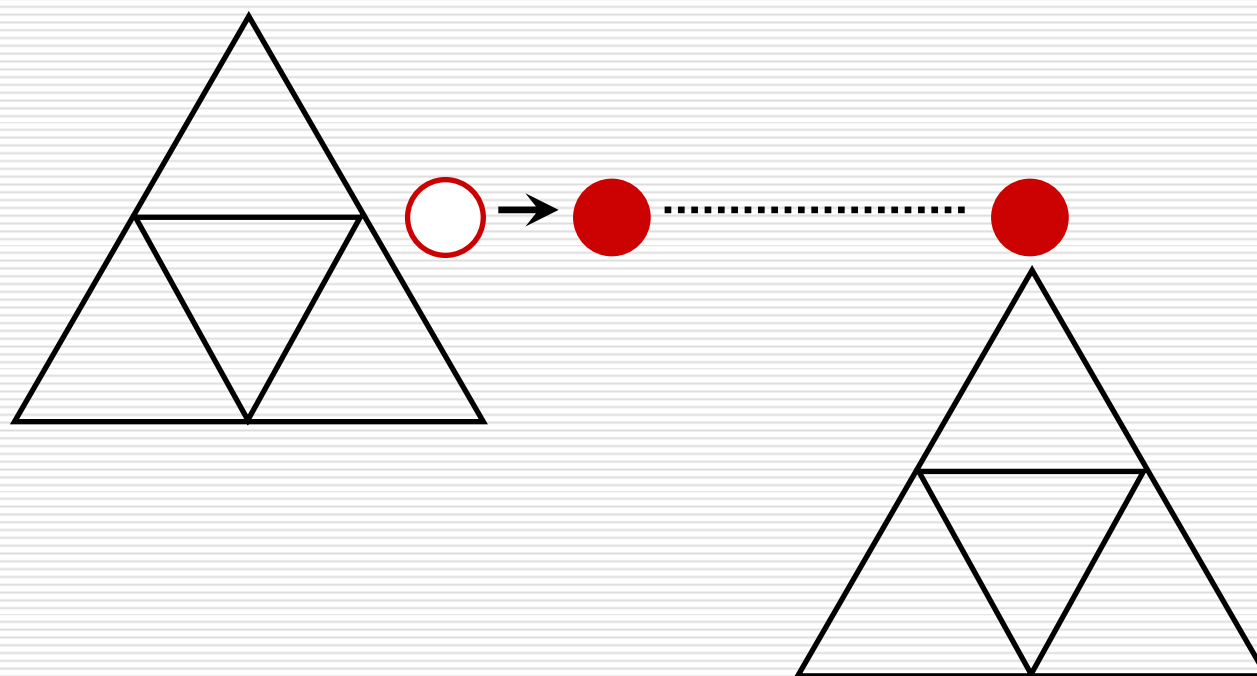


実用的な簡易図



活動と活動の関係①

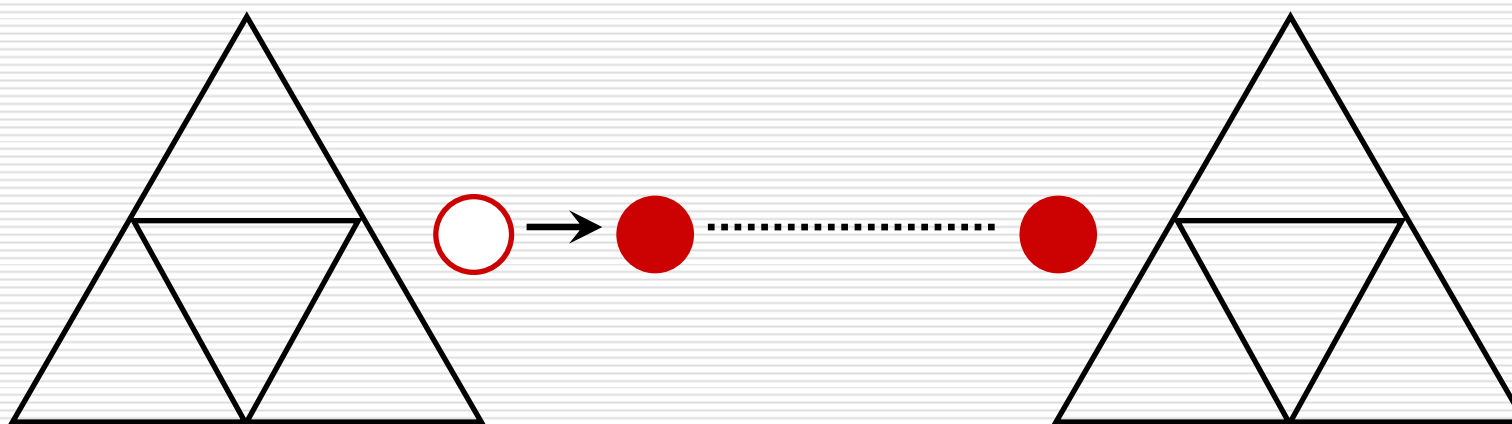
他の活動の道具をつくる活動



例：科学「活動」は、他の活動で道具として使用される知識を生産する。

活動と活動の関係②

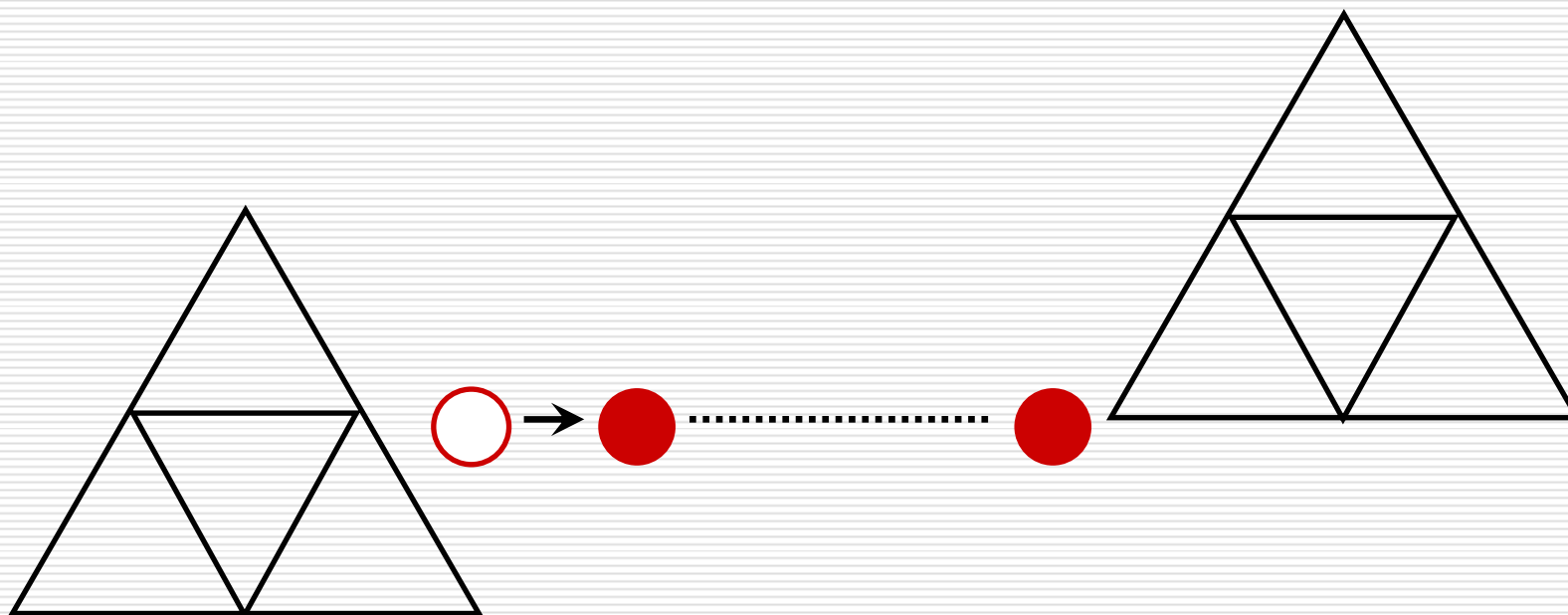
他の活動の主体をつくる活動



例:教育「活動」は、他の活動の主体となりうる人材を生産する。

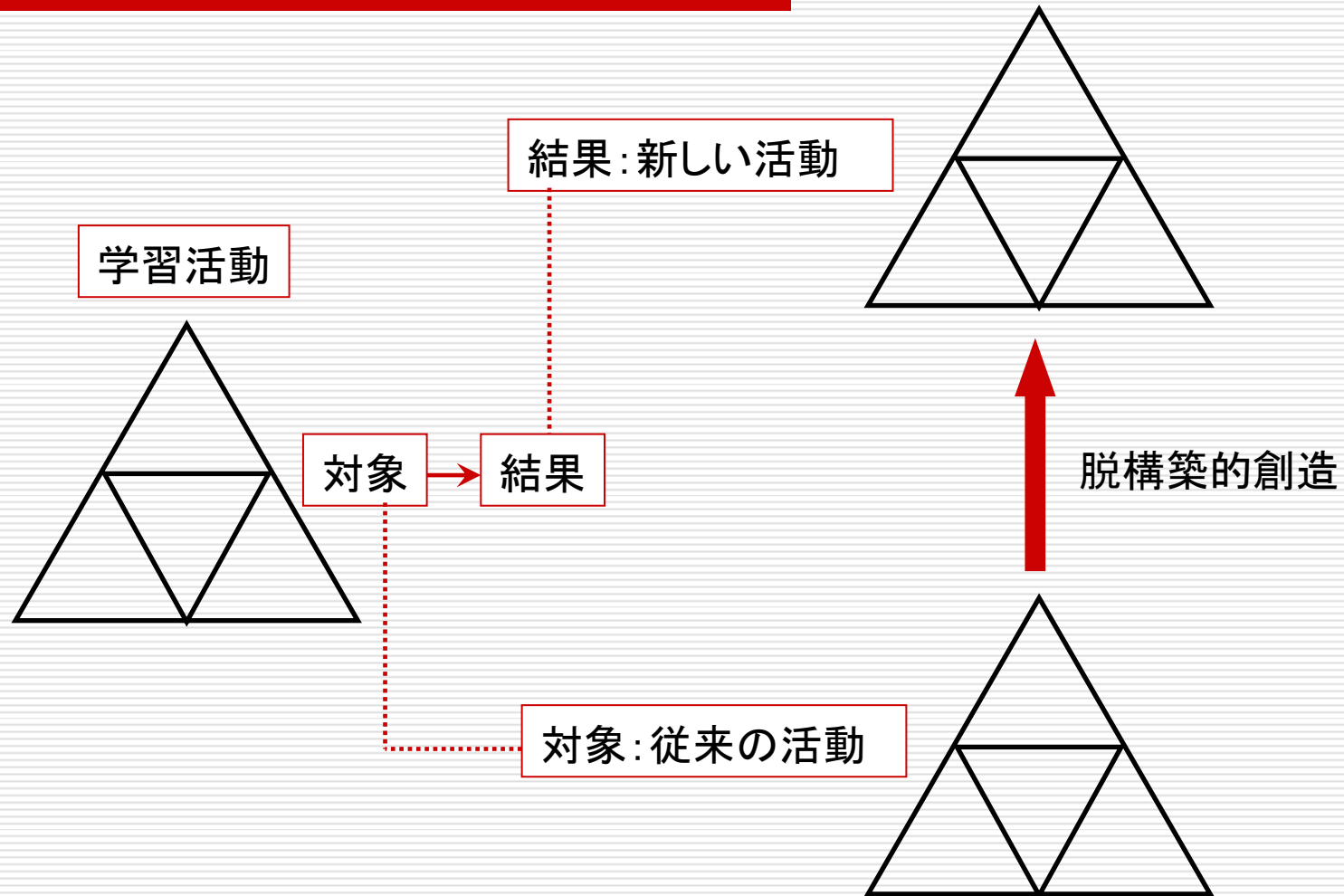
活動と活動の関係③

他の活動のルールをつくる活動

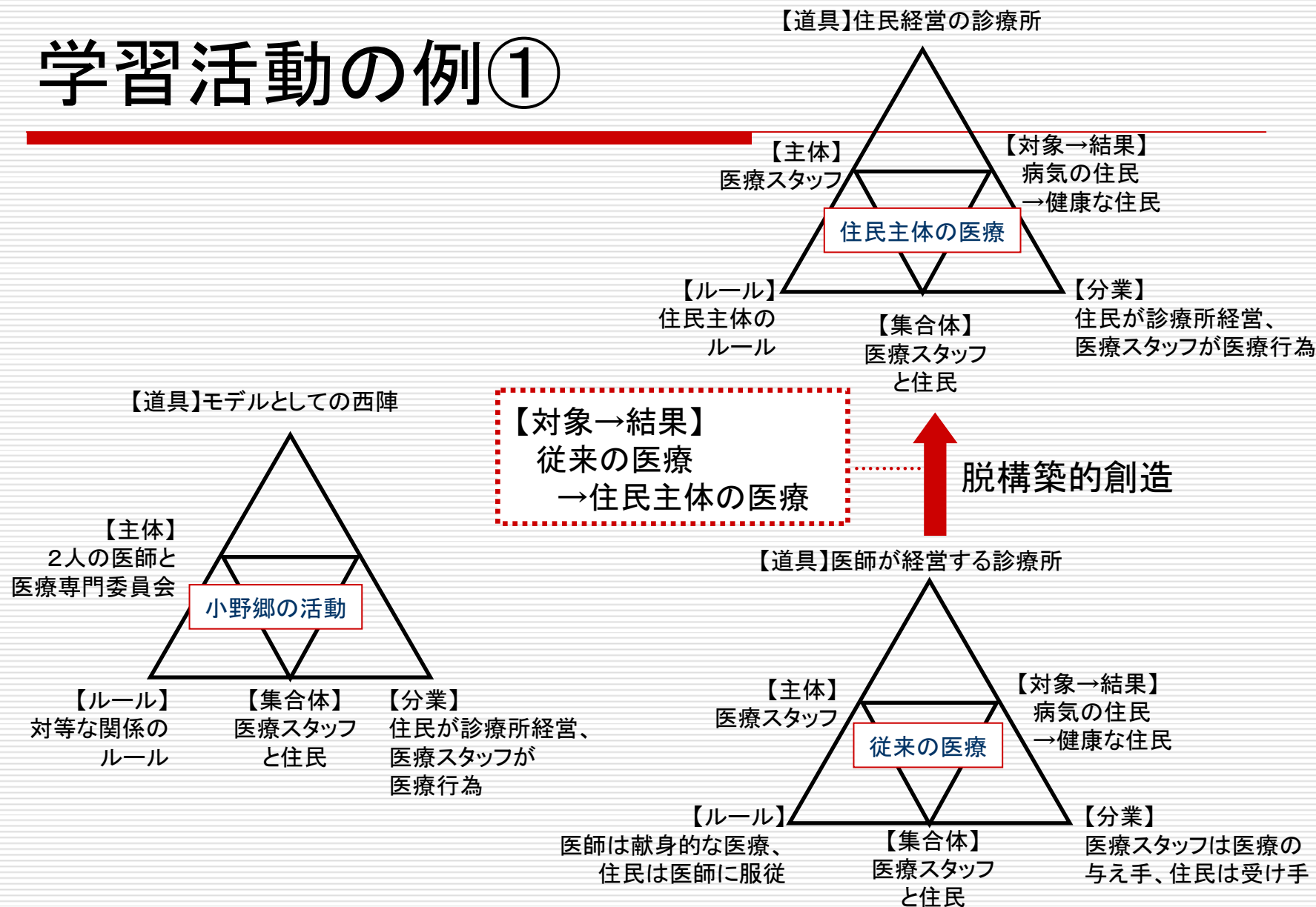


例：行政「活動」や立法「活動」は、他の活動のルールを生産する。

既存の活動を対象にして、新しい活動に変換する活動 (学習の活動:脱構築的創造活動)



学習活動の例①





2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)

大好きな小野郷 児童減少、過疎に負けない

地域の未来を担った取り組みを交互に報告する
五、六年生の児童ら



「早くが一年生の時、となりの子が転校していった。なんかショックだった」。京都市北区の小野郷小の五、六年生七人が、総合学習で「小野郷の明日を創る」に取り組み、地域の未来を考えた。五、六年生で児童数が半減した現状に、「大好きな学校をなくしたくない」との思いを込め、手作りのアンケートで大人たちに問いかけた。二月初旬に開いた研究発表会では、一人ひとりが、地域への熱い思いを報告、活性化に向けた提案も述べた。「これで終わりはなく、始まりです」。

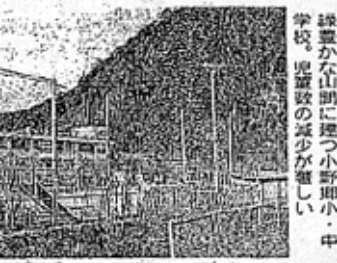
京都市北西、北山杉の産地として知られる山間部にある小野郷は、小中併校のへき地区。六年生が入学した六年前は児童数三十五人だったが、今では十七人。今年の新入生は二人と少なく、二年後には新入生がゼロになることが予想されている。

アンケート、大人に問いかけ

地域の高齢化による子どもの減少と、都市部への転出の増加が理由だ。友だちが一人二人と転校していく姿に、寂しさを感じていた児童らは、毎月一回和太鼓の指導に訪れる京都工業繊維大生から、部会でのナレーションで母が閉校になった経験聞いた。さらに「小学校は卒業生にとって

小学生が地域活性化へ発信

も、地域の人にとっても大事な場所」という話に後押しされ、昨年末から地域全体のアンケートに取り組みした。約百九十戸の一軒一軒を訪ねて用紙を手渡し、「昔の様子を教えてください」「若い人や子どもが返っているのをどう思いますか」「病院やコンビニなどの施設がないことをどう思いますか」「将来、どうなっていくといいと思いますか」など、率直な問いを置いた。さらに、林業を続ける児童の保護者に山仕事の楽しさ、喜びを聞いた。地域の人を抱いた座談会で本音を聞いた。



静かな山間に建つ小野郷小。児童数の減少が懸念されている。

アンケートには十八歳から八十代の人まで幅広く回答し、約半数が回収できた。五十年前と前には全校児童が百人以上いた。今より自然が美しかった。時代の流れとはいえ、子どもの減少や若い人の流出はさびしい。コンビニはともかく、病院がないのは加齢とともに不安。といった声が多かった。また、将来については「若い人の働く場所を自然を残しながら、住民を増やすべき」という意見が寄せられた。

発表会では、昨秋転出した二年生の児童との寂しい別れの場面をビデオで紹介。取り組みの様子を七人の児童が、交互に報告した。毎月数回「こは」は「人数が減ってきたら、学校がなくなるのも仕方ないのかな」と思っていた。でも、今ならやり直せるかな。自然も残し、小野郷しかできないものを作れば人も増える」と夢を描く。澤田まじかさん(こは)は「市街化調整区域で開発ができないなど、問題が多いことが分かった。病気がない」となど問題を解決していきたい」と決意をみせた。五年生の時、伏見の地域に替わってよかった。でも、自然豊かな」と真正面から受け止めて、子どもたちの声があつた。岩井規矩三校長は「子どもたちが地域に誇りを持つきっかけにしたい」と語る。子どもたちが地域問題について、小野郷体育会会長の高橋平さん(こは)は「さん(こは)は」内会や自治会も話し合ったことがなかった。でも、みな小野郷が大好き。だから、大人たちが何か考えなければいけません。子どもたちの声があつた。岩井規矩三校長は「子どもたちが地域に誇りを持つきっかけにしたい」と語る。



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)



岩
ノ
葉
社
子
會
館
西

達成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於：キャンパスプラザ京都
京都大学・福井宏和 (INSS)



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)



北区の小野郷

住民の手で診療所

無医地域になって久しい京都市北区の小野郷地域の住民たちが、二月初めにも診療所を開設する。同市上京区内の医療機関の医師が協力を申し出て、無医地域の解消へ第一歩を踏み出す。同地域では、今後も診療所の開設が相次ぐと予想され、法人(特定非営利活動法人)を立ち上げ、全国的にも珍しい「住民による診療所運営」に乗り出す計画だ。

「無医」3年乗り越え2月開設

小野郷地域は、三年前、京会(上京区平本通)に開設していた診療所が「上北」理事長の水原宏通(みずはら ひろと)により、無医地域になった。人口約四百二十人で、診療所長の坂津幸彦(さかづき ゆかひこ)さん(65)は「人口約四百二十人で、診療所長の坂津幸彦(さかづき ゆかひこ)さん(65)は「人口約四百二十人で、診療所長の坂津幸彦(さかづき ゆかひこ)さん(65)は」

上京の医療機関と京大協力 NPO設立、運営へ

リコナーで選んできた。近くの公民館機能を持つに要する住民による自治体職員の一部、小野郷自治会では、地を確保。二月初めから水引組みは、地域活性化の域での医療機関の開設を、坂津さんたちが週三日、朝(診療と往診を行う)併が並ぶ中で、医療機関都市に診療所設置の要請となった。書を出すと、地域自治体職員らが中心になって取り組む。小野郷自治会の伊倉英彦(いぐら ひでゆき)さんが、NPO法人の会長として「医療化」が実現する。診療所運営、同法人に、者が成るが、仕事を休一昨年春、同地域に診療所、個人経営に比べ、高年齢者を病院に送らせたことと、水原さん、たな医師が確保しやす

く、再び無医地域に陥る可能性も少ない。同地域を研究の場とする京都大学の杉方俊夫教授(すぎがた しゅんぶ)の指導の下、専門委員会が公費や財源確保など同法人設立に向け、検討を進めている。

お医者さん やって来た

北区小野郷 診療所3年ぶり開設

お年寄り「心強い」

国民健康保険法に基づき、小野郷地区に開設された診療所は、三層建ての診療所として、地域の医療ニーズに応えるべく、一年前から準備作業を進めてきた。この診療所は、地域の医療ニーズに応えるべく、一年前から準備作業を進めてきた。



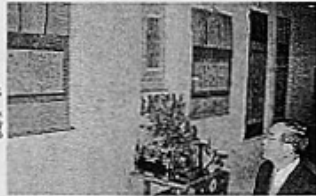
小野郷地域に3年ぶりに開設された診療所でスタートした診療（京都市北区）

住民運営目指す

診療所は、医療機関を営むための法人であるが、この診療所は、地域の医療ニーズに応えるべく、一年前から準備作業を進めてきた。この診療所は、地域の医療ニーズに応えるべく、一年前から準備作業を進めてきた。

日蓮の直筆書を公開

本能寺5年ぶり



日蓮の直筆書状などを展示する本能寺宝物館（京都市中京区）

天竺文の直筆に自分の体を熟知する者がいるのは心強い。二度と無難な道に戻してはならない。ZAO設立は、この診療所を運営するための資金調達に力を入れている。ZAO設立は、この診療所を運営するための資金調達に力を入れている。

最高級ロカラーの
ダイヤモンド
エンゲージ

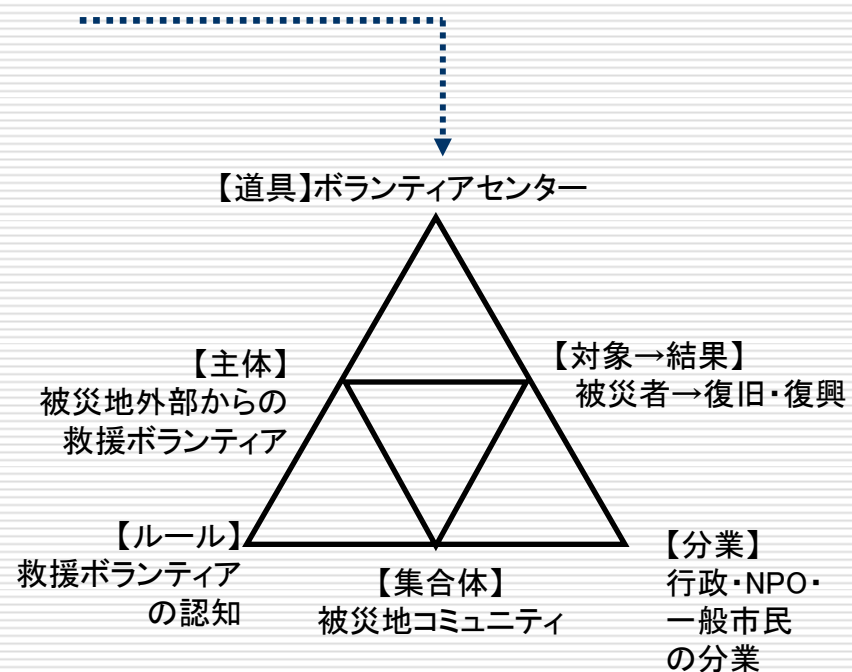
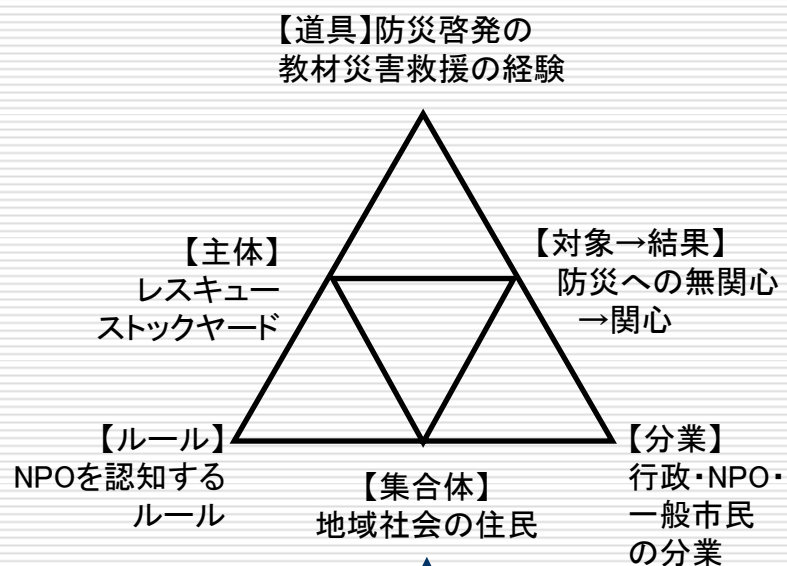
エンゲージリング・マリッジリングは

小町ジュエリー

TEL: 075-222-1147

学習活動の例② - 1

平常時のレスキューストックヤードの防災活動



災害時のレスキューストックヤードの救援活動





2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 木



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉

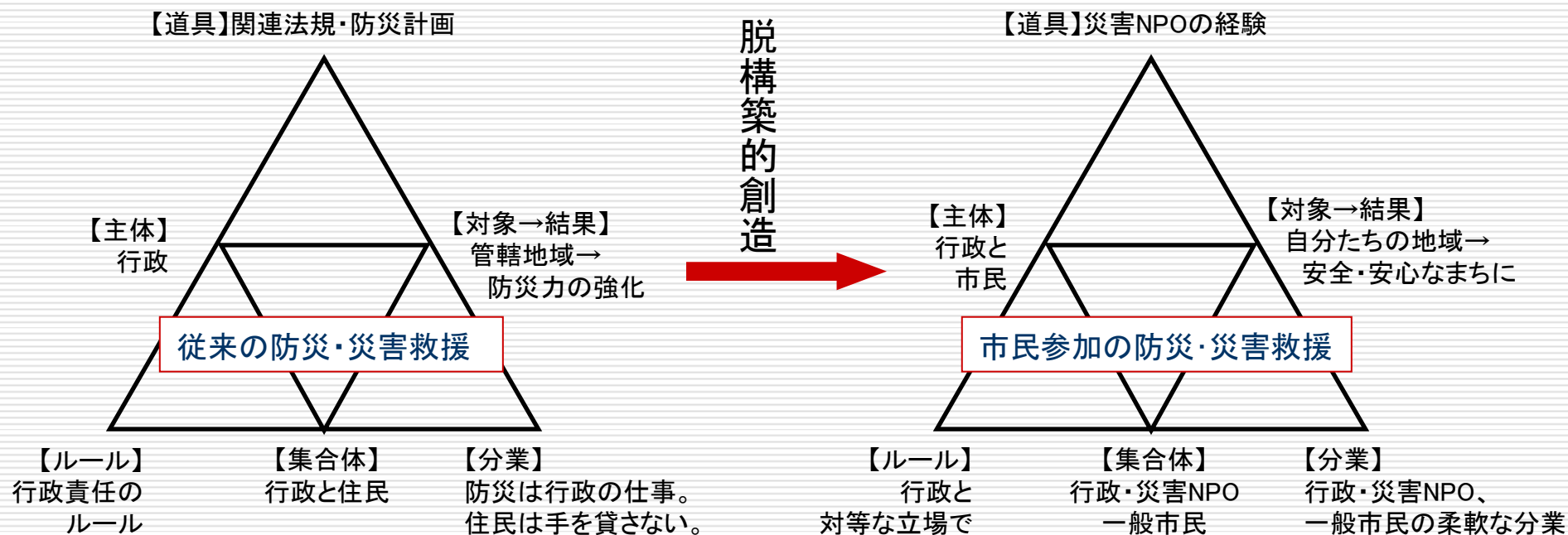


2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)



2006年12月5日平成18年12月5日(火) 公開ワークショップ 原子力組織の安全文化醸成への道～「学習する組織」のあり方を問う 於:キャンパスプラザ京都
「学習する組織」と活動理論～現場研究によるアプローチ / 杉万俊夫(京都大学)・福井宏和(INSS)

学習活動の例② - 2



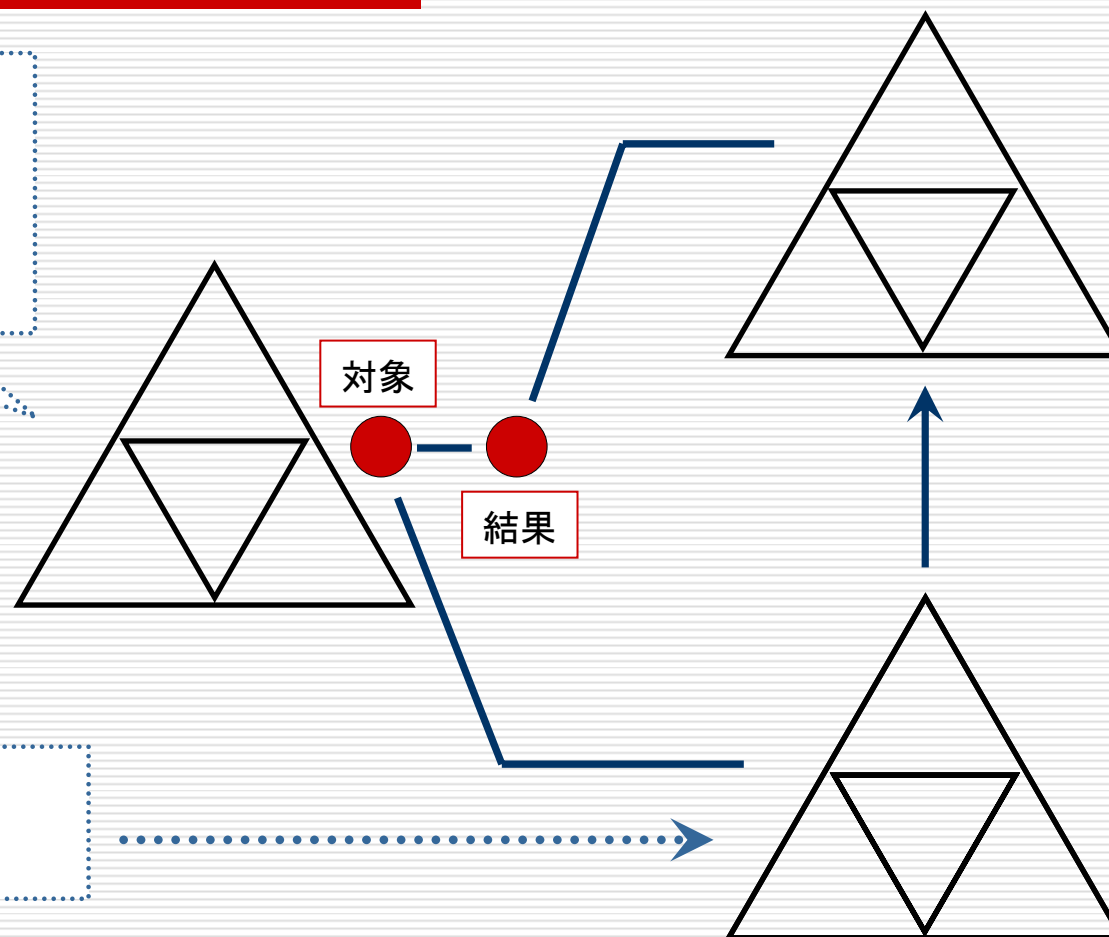
「学習する組織」とは

学習活動(脱構築的創造活動)が
ビルトインされている組織。

……では、現象内在的な視点に立って
学習活動を考えてみよう。

続・「学習する組織」とは

これは新しい活動が
はっきり見えるような
時点に達した後
に描ける事後的な図



最初はこれ
(現在の活動)しかない

「小さな気づき」と「小さな試み」

作業者の小さな気づき



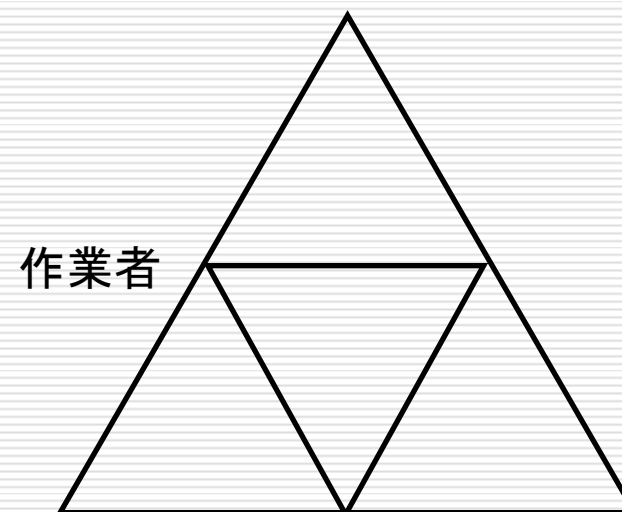
最初のハードル

「気づき」で終わるか否か、
気づいただけだと、すぐ忘れてしまう。
そうさせてしまう職場の力が
存在してはいないか？



次のハードル

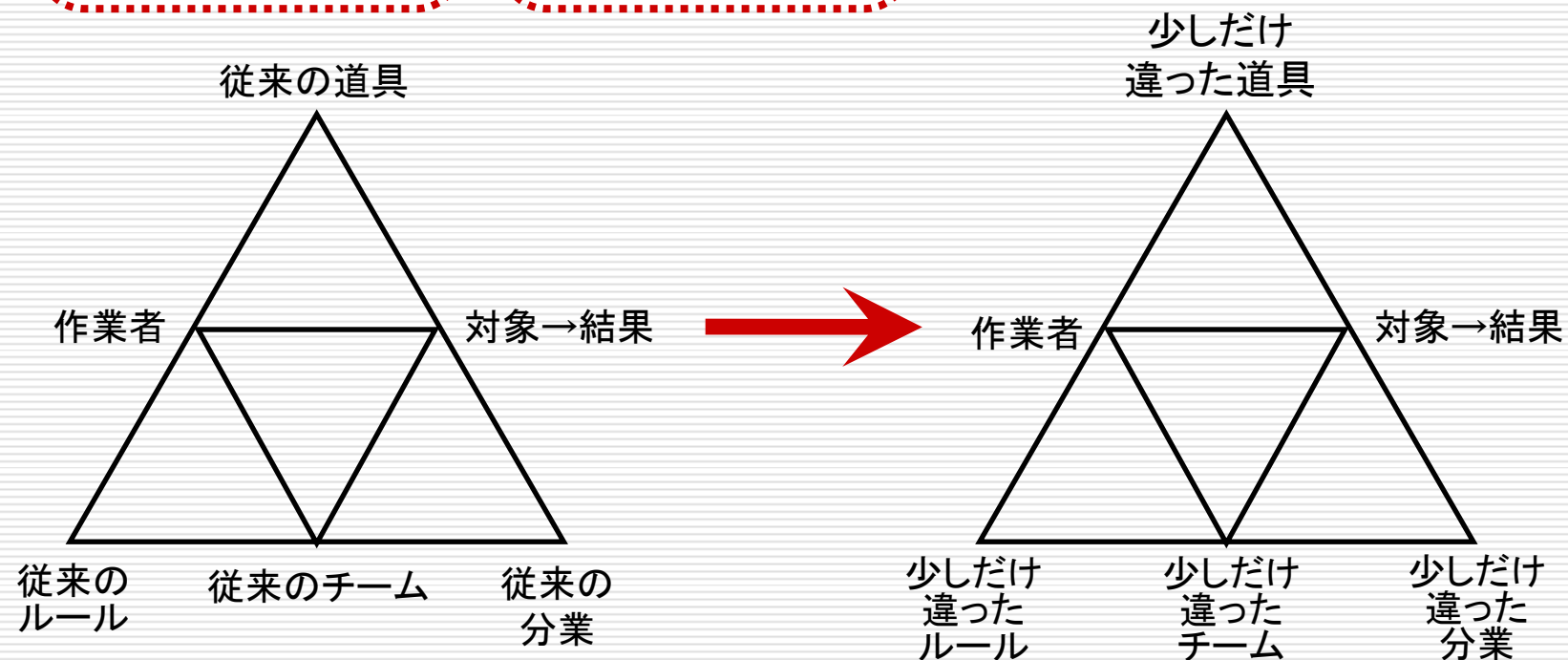
「小さな気づき」を「小さな試み」に
つなげる事が出来るか、
そうさせない職場の力が
存在してないか？



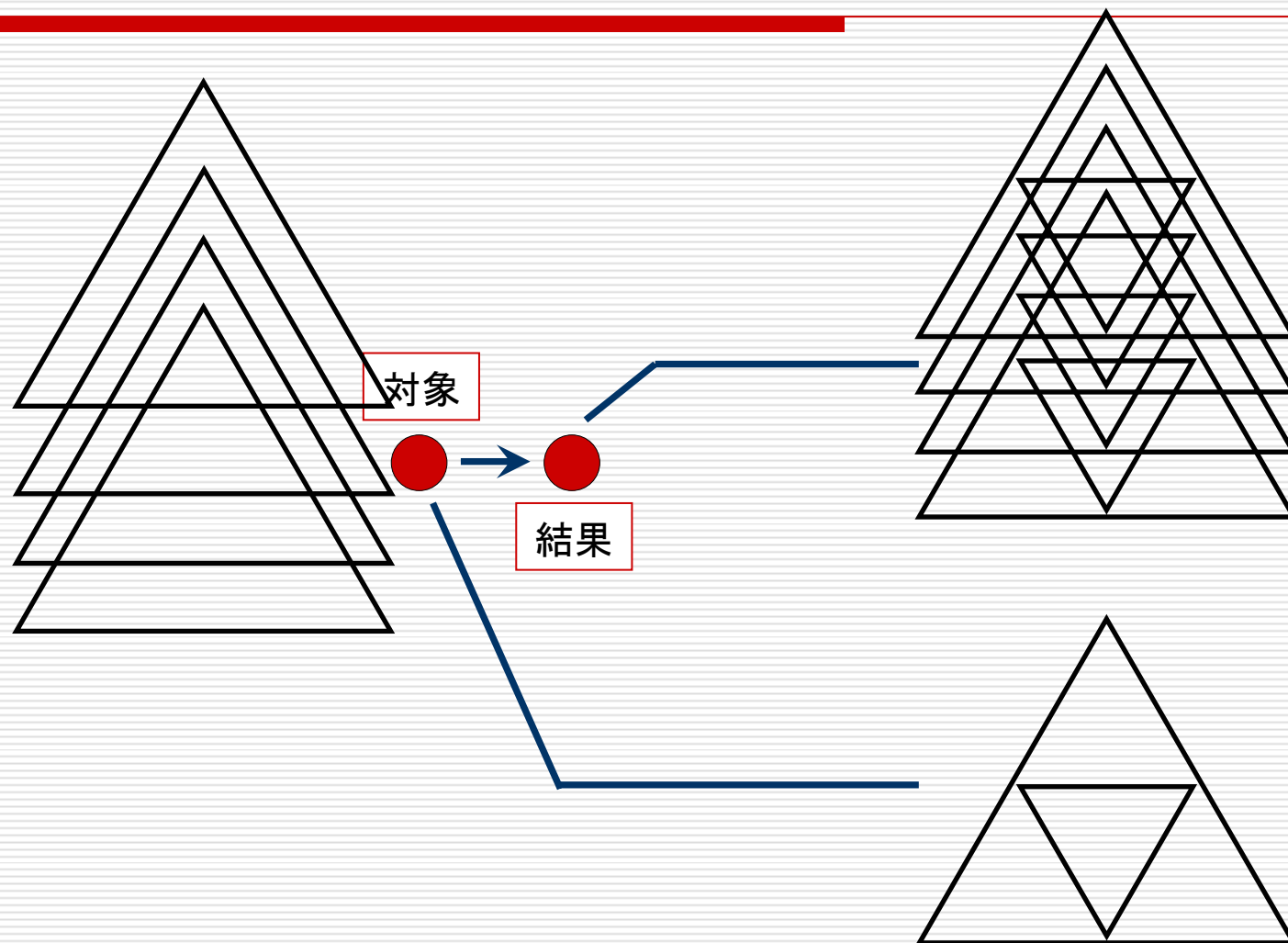
本プロジェクトの課題

これを
促進する
活動

これを
阻害しない
活動



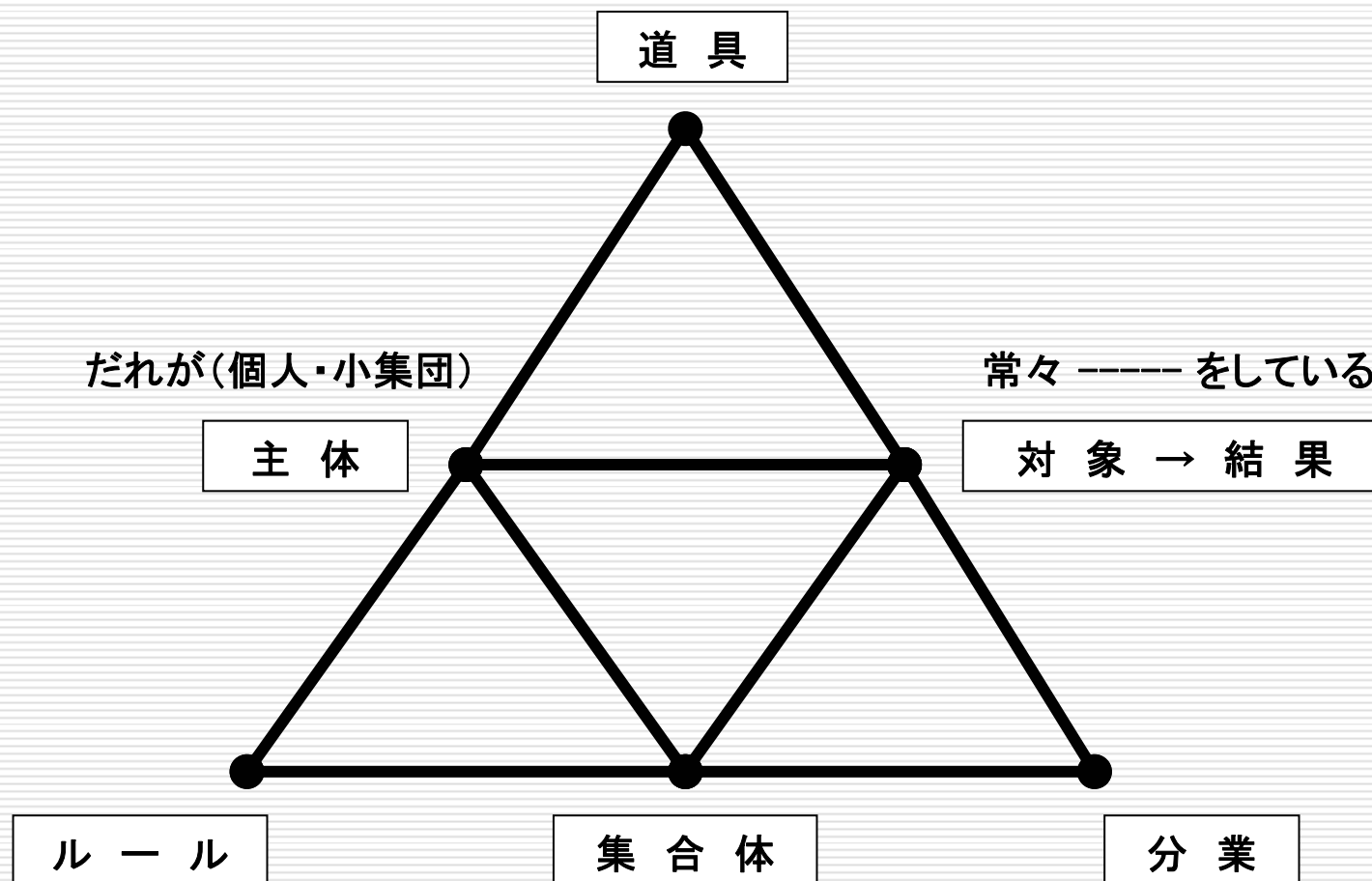
「小さな試み」が相当程度行われている職場



この上向きのシフトに何が必要か(1)

一つ一つのシフトは、一点突破的。
既存の活動に「矛盾」を起こす。

活動の構造



この上向きのシフトに何が必要か(2)

夢(ビジョン)を「語る」。

夢「見る」ことと夢を「語る」こと

ともすれば、夢見ることも忘れがちだが。

夢を語れるか---語る相手が「チーム」に。

夢とぼやき(語れない夢)の違い。

夢の妥当性に絶対的基準はない。

語った結果によってわかる。

- ・それで、どうするつもりなの？
- ・うん、やってみようか。
- ・それが夢？